

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1072900523		
法人名	有限会社 サイコ・ソマティックケアー		
事業所名	グループホームアルプス		
所在地	太田市藪塚町4149-3		
自己評価作成日	令和4年11月20日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人群馬社会福祉評価機構		
所在地	群馬県前橋市新前橋町13-12		
訪問調査日	令和4年12月12日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・裏の畑で野菜を育て、収穫したものを新鮮なうちに調理して提供している ・月に1度以上、ラーメンの出前やとり弁当等を買ってきて、外食の楽しみを取り入れている ・買い物支援や通院等の支援も行っている ・訪問医や訪問看護ステーションとの連携を取り、体調不良時にもすぐに対応できるようにしている ・併設の小規模との合同の行事を多くしながら、事業所内だけではなく地域で暮らしている方との関係性を大切にしている

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>代表者が職員の誕生日に食事の機会を設けて、直接思いや意向を聴いている。また、管理者を中心に職員間で話しやすい雰囲気作りをして、勤務時間帯のことや利用者のケアに関する事など、自由に意見交換を行っている。この他、職員のスキルに応じて研修の機会も提供し、仕事に対する意欲向上にもつながっている。重度化や終末期のあり方については、指針を基に家族に説明し、家族の意向をその都度確認して、看取りを含めてそれらに応えられるよう支援している。火災対策については、マニュアルを作成し、一連の訓練を行うと共に、連絡網などにより地域との協体制度を構築している。食事は、家庭菜園の収穫物を多く取入れ、季節の食材で手づくり料理を提供すると共に、ラーメンの出前を取ったり、利用者の要望に応えた食事を楽しむことのできる支援に努めている。また、コロナ禍においても、個別に買い物や花見、散歩など、日常的な外出支援を行っている。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	基本理念に加え、職員全員で考えたサブ理念がある。実践に繋がられるよう、施設の数か所に掲げている。楽しみのある生活が送れるよう、会話の中から意見を聞き取りながら支援している	併設の小規模多機能型居宅介護事業所と共通の法人の基本理念を基に、具体的に分かりやすい事業所独自のサブ理念を作り、職員採用時や勉強会、日常業務の中で、実践に関連づけて理念について話し合っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のこども園の慰問や運動会の応援等で交流をしていたが、コロナ禍で出来ていない。見学は出来ないが、かかし祭りに作品を出品している	これまで、地域の子ども園との交流、オカリナなどのボランティア受入れを行っていたが、コロナ禍で一時中断した。現在は、かかし祭りに利用者と一緒に作った作品を出品したり、併設の小規模多機能型居宅介護事業所の利用者との交流を行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症相談窓口となり、認知症で悩んでいるご家族の相談に乗っている。園芸療法を学んでいる方の実習を受入れている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は開催できていないが、アルプス新聞を読んでいただいたり、第三者委員さんに来ていただきご意見をいただいている	コロナ禍、運営推進会議開催を一時的に中断している。家族をはじめ会議の構成員には、アルプスだよりを配布し、事業所の様子を伝えている。また、地域代表である第三者委員には、来所いただき、情報・意見交換の機会を持っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	電話や直接市役所に出向き、相談に乗っていただいている	市の担当者とは、コロナウイルス感染対策や運営上のことで分からないことを、電話や直接出向き、相談している。また、地域包括支援センターの職員とも、空き室情報の提供や地域の情報交換を行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束排除マニュアルを作成し、身体拘束廃止委員会を中心にカンファレンス等を中心に勉強会を定期的に行っている。事業所でありそうな具体的な行為を確認し、身体拘束をしないケアに繋げている	身体拘束に関する研修会に参加した職員が事業所内で報告して周知を図り、カンファレンス等で勉強会を定期的に行っている。また、具体的な事例を基に職員間で話し合い、言葉遣いも、その都度管理者が助言する等、身体拘束しないケアに努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	権利擁護や身体拘束の研修会に参加し、資料を基に他のメンバーに伝え理解を深めるようにしている。特に入浴時には痣や怪我がないかも確認するようにしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度や日常生活自立支援事業を利用されている方がいたので、社内研修等で話し合いの時間を設けている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には契約書、重要事項説明書等を口頭で説明しながらサインをいただいている。解約、改定の際も書面で説明し、同意を得ている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	コロナ禍で家族会や夏祭りが開催できず、意見や要望を聞く機会は減っているが、請求書を送る際や、面会時や電話で普段の様子を伝えたり、意見や要望も聞いている	家族には、面会時や電話、施設たよりで、利用者の様子等を知らせて説明し、その際に要望を伺っている。これまでは、家族会を開催し、夏祭り等についても意見交換しながら開催しており、来年には再開を予定している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者が職員それぞれの誕生日に外出に行く機会を設けて、話を聞いている。管理者は、普段から職員の意見や提案を聞いている	代表者が職員の誕生日に食事の機会を作り、職員の思いや意向を聴いたり、管理者を中心に職員間で話しやすい雰囲気作りに努めている。最近では昼食後に話合う時間を作り、勤務時間を有効に使うことにつながった。この他、職員の意向でスキルに応じた研修の機会を提供している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	それぞれのスキルに合わせた研修受講や、資格取得の為に休みを優先的に取得出来るようにしている。夜間、職員が困らないよう人感センサーの設置をしたり等の職場環境改善に努めている。職員の実績に合わせたベースアップをしている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	スキルに応じた研修を受けられるようにしている。研修後は報告書の記入し、法人内の勉強会で報告し、資料を閲覧して情報共有している		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域密着型連絡協議会に加盟し、交流する機会を確保している。以前は相互訪問をしていたが、最近ではコロナ禍で出来ていない		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスを開始する前になるべく本人にお会いし、困りごとを聞けるようにしている。最初はなかなか他者との交流が難しいので、職員が話相手になったり、間に入ったりして安心してもらえるような関係づくりに努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス導入前から本人や家族、担当のケアマネージャーさんからお話を伺いながら、それまでの生活歴をお聞きして、施設での生活をする際の不安が解消できるよう親身になって支援している		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族から話に耳を傾けて、必要な支援は何かを見極めながら、適切なサービスに繋がれよう努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の出来ることを見極めながら、テーブル拭きや洗濯物たたみ等の役割を持っていただき、協力しあって共に過ごす関係を築いている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	施設での普段の様子や往診時のドクターからのお話を伝え、本人と一緒に支える関係を築いている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の面会は談話室で感染対策をしながら行っている。友人の面会はコロナ禍なので、ご遠慮いただいているが、手紙や電話のやり取りの支援は続けている	現在、面会は家族に限定し、友人は手紙や電話のやり取りができる支援をしている。買い物は、職員が個別対応をしている。また、日頃利用者との会話を通して昔話や生活の様子を聞き、生活の中で関係継続できるものを取り入れている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員は利用者間で会話が弾むように話題を提供したり、座席の配置を工夫したり、レクリエーションを通じて関わりあえるようにしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も電話で様子を聞いたり、気軽に相談いただけるように声をかけている。看取りで亡くなられたご家族が定期的に遊びに来て下さったり、良い関係性が築けている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活のなかで会話の内容や、表情、しぐさなどから利用者の思いをくみ取っている。思いを表出できない方には、ご家族からご本人の生活歴や好きな事を聞いて希望を把握している	日々利用者と接する中で、直接伺い、会話の内容から思いや意向を汲み取るようにしている。思いを表出できない利用者には、ゆっくり話しかけ、表情や動作などを観察して、汲み取るようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に今まで使用していた家具等馴染みのものを持ち込んでいただき、生活環境が変わらない配慮をしている。また入居後に会話の中から知りえた情報を日誌や申し送りに記録し、職員間で共有している		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの生活の様子や体調の変化等気付いたことを個人日誌に記録したり、口頭にて職員間で共有したり、訪問看護師や訪問医に相談したりしている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリングを毎月行い、ケアカンファレンスで話し合っている。介護計画を家族に面会時や電話やメールにて説明し、同意を得てサインをいただいている。要望等もよく聞いて、介護計画に反映している	担当制で担当職員が、介護計画に沿ったモニタリングを行っている。カンファレンスで話し合い、家族の意向も反映させ、ケアマネジャーがまとめ、実情に沿った介護計画の見直しにつなげている。介護計画と日々のケア記録との関連性の薄さがみられる。	介護計画を意識した日々のケア記録の検討・工夫に期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	食事量、服薬、排泄、口腔ケア等一日の生活の様子を個人日誌に記録している。排泄チェック表を作成し、確認しやすいようにしている。申し送りノートでも職員間で気づき等を情報共有して、介護計画の見直しに活かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	早急な受診が必要な時の付き添い支援、買い物支援等も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍で、地域の行事の外出はできていないが、かかし祭りの作品の出品はしている。また、外食が難しいので、出前を取ったり、テイクアウトを買ってきて外食気分を味わっている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望で今までのかかりつけ医か訪問医かを選択していただいている。家族受診の時は口頭や手紙などで医師に情報提供している。診察時の内容を受診ノートに記録し、職員間で共有している	受診は、本人・家族の意向に沿って行っている。大方は、協力医の受診で、月に2回往診がある。従来のかかりつけ医を受診の場合は、原則家族が通院介助をしている。歯科は、必要に応じ往診がある。また、訪問看護師が週に1回、健康管理面での助言・サポートをしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションと契約し、24時間相談が出来る体制をとっている。利用者の状態変化の際にも電話で相談し、必要に応じて処置していただいたりアドバイスをもらったりしている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には情報提供書を送り医療との連携をとっている。コロナ禍で面会が出来ないので、電話で病院や家族と情報交換し、早期に受け入れられるようにしている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化や終末期の話をさせていただいている。また、Drから終末期の段階になった時点で、医療機関、家族、施設でのカンファレンスを行い、家族の悔いの残らないような終末期ケアが出来るようにしている	重度化や終末期のあり方については指針を基に、入居時に家族に説明し、家族の意向も把握する。その後、状態変化に応じて適宜家族の意向を再確認し、看取りを含め、管理者を中心にそれらに応えられるよう支援をしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	コロナ禍で救命講習を受けていないが、内部研修にて行っている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回、昼間・夜間想定にて消防訓練を実施している。防災マニュアルや緊急時の連絡網を整備している	年2回、火災の避難訓練を実施し、その内1回は夜間の想定で行っている。マニュアルを作成し、近隣住民に協力員の依頼をして、その連絡網を整備している。災害時の備蓄は、1週間程度以上用意している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	居室に入る時はノックしたり声かけをしたり、一人ひとりに応じた対応をしている。人生の先輩としての尊厳やプライバシーを守る対応を心がけている	呼称は、さん付けを基本にしている。居室に入るときはノックや声掛けを行っている。トイレでの排泄の時は、自分でできることはなるべく本人に任せ、自主性を尊重するよう努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	何でも言いやすい雰囲気づくりを心がけ、職員との会話から希望や思いを聞いている。自己決定が難しい利用者には表情やしぐさ等で気持ちを汲み取るようにしている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	午前と午後にはレクリエーションの時間を設けているが、個々の体調やペースに合わせ参加は本人の希望に任せている。テレビを見たり、日向ぼっこしたり自由に過ごしている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類選びは基本的に本人にお任せしているが、季節に合わない服装をしている時は声をかけさせていただき、一緒に選んでいる。化粧を楽しんでいる方には、買い物の支援等している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	基本的には食材は外注し、裏庭で取れた野菜と共に職員が調理して提供している。週に1度は利用者の希望を聞いて、麺類やパン等提供している。食事の準備や後片付け等、手伝っていただいている	家庭菜園で収穫した野菜を多く取り入れた献立を考えて、季節の食材で手づくり料理を提供している。また、利用者のラーメンの出前のリクエストに応える等臨機応変な対応をして、食事を楽しむ支援に努めている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量、食事形態等個々の状態に合わせて提供しており、食事量は個人日誌に記録している。いつでも水分補給できるよう、麦茶やお湯を用意して好みのものを提供している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後必ず口腔ケアをしている。必要な方には仕上げ磨きをしたり、時々確認するようにしている。夜間時には義歯消毒し、清潔を保っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握して誘導したり、安全を考慮してポータブルトイレを置いて、トイレで排泄できるよう支援している	排泄チェック表で個々の排泄パターンを把握して、定時・適時に声掛けや誘導を行っている。基本はトイレでの排泄として、利用者本人ができることはなるべく任せている。また、なるべく自然なお通じを心掛けて、腹部マッサージ等を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表にて便の量や形状等把握している。水分摂取量を把握して、不足している時には時間をずらしたり、甘い飲み物を提供して摂取していただくようにしている。レク時の運動や食物繊維の食事にも気をつけている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週に2回以上入浴日の設定をしているが、本人の体調や希望を聞いて別日にシャワー浴を行うこともある。また、季節に応じて入浴剤やゆず湯で入浴を楽しんでいた	入浴は火・金曜日を基本とし、本人の体調や希望を聞いて別日に変更をしたり、車いすの利用で浴槽の出入りが困難な人はシャワー浴で対応したりなど、臨機応変な対応をしている。また、入浴剤や季節のゆず湯で、入浴を楽しめる支援に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	食堂にソファを設置したり、日向ぼっこ出来るように椅子をおいたり、利用者の好きなところで休んでいただける空間づくりをしている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	受診ノートに薬の内容をファイルして職員が把握できるようにしている。また、薬が変更になった際には薬剤師に確認している。服薬後の症状に変化があれば、訪問医に連絡をとり、指示を仰いでいる		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	職員と一緒に洗濯物を畳んだり、ドアノブの消毒等を手伝っていただいている。また、宅配のカatalogを見てお買い物を楽しんでいただいている。家族から、好きな飲み物を持参いただき、飲んでいられる方もいる		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物の支援や、お花見学に行く等、コロナ禍の状況をみながら、なるべく外出出来るようにしている	コロナ禍においても、利用者の要望に応じて個別の買い物や季節の花見に出かけている。天気が良い日は、敷地内や近隣を散歩したり、中庭に出て外気浴を行ったりなど、日常的な外出支援を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理が出来る方には、所持していただき、希望した買い物の支払い等をしていただいている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望に応じて電話をかけたり、手紙のやり取りが出来るように支援している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節を感じていただけるように中庭に花壇を作りいつでも食堂から見られるようにしている。共用スペースにも花壇の花を飾り癒される空間作りをしている。また、暑い時期にはすのこを使用して快適に過ごせるようにしている	クリスマス飾りなど、その季節に合ったものを題材にしたものを利用者として作り、飾っている。また、中庭に花壇を作って季節の花が廊下から楽しめるようにするなど、居心地よく過ごせる工夫をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間にはソファを置いたり、居室で一人でテレビを見たり、好きな場所で思い思いに過ごせるような環境づくりをしている。また、気の合う方と自由に過ごせるよう、座席にも配慮している		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	以前から大切にしている物や今まで使っていた家具等を持ち込んでいただき、馴染みのあるくつろげる空間になるようにしている	居室には、持ち込んだダンスやテレビなどが配置され、家族写真も飾っている。配置は、利用者の意向を聴き、安全面も考慮している。また、他の人を気遣うことなく用足できるように、ポータブルトイレを用意する対応もしている	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内はバリアフリーになっていて、廊下やトイレ、浴室に手すりがついている。居室には大きな文字で表札があり、トイレ近くには矢印や折り紙で折って作ったカエル等で、トイレの場所や洗面所が分かるように工夫している		